

ポリウレタン樹脂は、合成皮革やボンディング加工布、コーティング加工布など様々な素材に使用されており、外観上は異常がないように見えても、劣化が進行していることがあります。今回は、ボンディングに使用したポリウレタン樹脂の劣化による剥離について紹介します。

素材特性に注意

監修／クリーニング総合研究所

衣類の状態

クリーニングから返ってきたコート全体に、ぶくついたようなシワができていたとの申し出があった。

事故の防止対策

ポリウレタン樹脂の経時的な劣化は避けることができないため、抜本的な防止策はない。

ポリウレタン樹脂は空気中の水分による加水分解などにより、通常2～3年で劣化することが明らかになっており、クリーニング事故賠償基準ではボンディング加工品の平均使用年数を2年としている。

原因

ボンディングに使用されているポリウレタン樹脂が空気中の水分などにより経時劣化したことに加え、クリーニング処理を行うことで剥離が生じたもの。



ボンディング加工布を使用したコート

ポリウレタン樹脂加工製品全般に対する注意事項

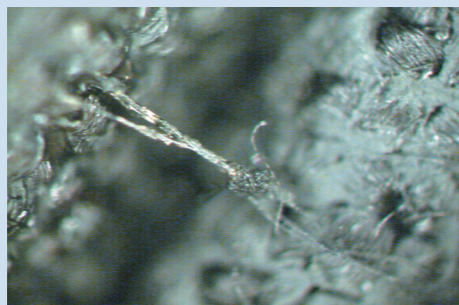
ボンディング加工やコーティング加工などポリウレタン樹脂加工製品全般に対しては、次のような配慮が求められる。

- 取扱表示などを参考に、洗える製品かどうかを確認する。  
(水洗い、ドライクリーニングのいずれも不可を表示している製品がある)
- ボンディング加工やコーティング加工に使用されている樹脂は組成表示の対象になっていない。ただし、組成表示以外でポリウレタン樹脂などを使用していることを表示している場合がある。

- 汚れが付着しやすく、かつ、着用摩擦を受けやすい生地への折り返し部分、袖口、裾回り、衿回り、脇下などに異常がないかを確認する。  
(汚れが樹脂の劣化を促進し、着用摩擦で剥離、脱落が生じていることがある)
- ベとつきなどの兆候があるものは剥離等の生じる可能性が高いためクリーニングできないことを伝え、お断りすることが望ましい。

- 製品を製造してから2年以上経過している場合には購入の時期に関係なく劣化が進行しており、クリーニング処理で剥離が生じる可能性のあることを伝える。

顕微鏡写真



接着していたポリウレタン樹脂がわずかに残留している



生地全体に波打ちが生じている

- 品名…コート
- 素材…表面：ポリエステル100%  
裏面：ポリエステル80%、綿20%
- 取扱表示…
- 処理方法…石油系ドライクリーニング、  
タンブル乾燥、ハンドアイロン仕上げ

- 「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。  
全ク連HP <https://www.zenkuren.or.jp>  
「お知らせ」→「衣料管理情報」